

2009

冠動脈CT検査における長時間作用型β遮断薬前日投与の有用性

¹佐賀県立病院 好生館、²佐賀県立病院 好生館、³佐賀県立病院 好生館

小出 佐智子¹、吉田 敬規²、中野 加代子¹、岸川 誠³、貞松 研二²

【目的】当院では冠動脈CT検査の際、画質の向上ならびに被曝の低減のために心拍数60/分以下を目標として短時間作用型β遮断薬の内服を検査当日受診後に行っている。しかし、目標心拍数に至るまでに一定時間が必要となる。そこで我々は院内滞在時間の短縮を目的として長時間作用型β遮断薬を検査前日に服用させ、その有用性について検討した。【方法】2008年11月から2009年8月までに冠動脈CT検査を受けた患者を対象に、検査前日のβ遮断薬投与の有無における来院時の目標心拍数到達率ならびに撮像時目標心拍数達成率を調査した。また撮像可能となるまでに要した時間についても調査した。【結果】来院時に目標心拍数に達していた割合は、当日投与群26%に対して前日投与群56%と有意に多く達成していた。撮像時目標心拍数達成率は当日投与群66%、前日投与群56%であった。撮像可能となるまでに要した時間は当日投与群34分、前日投与群18分と前日投与群で有意に短縮されていた。【結語】検査前日に長時間作用型β遮断薬投与を行うことにより、6割の患者が来院時に目標心拍数に達しており、院内滞在時間が有意に短縮され、有用性が示唆された。